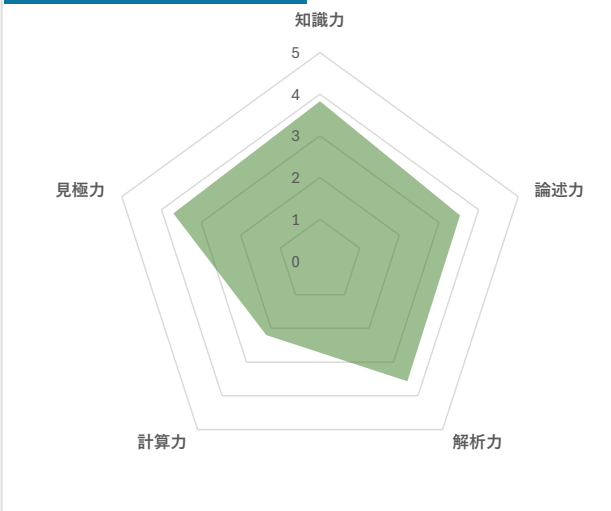


総合分析

試験区分	一般 (前期)		
制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 3 問

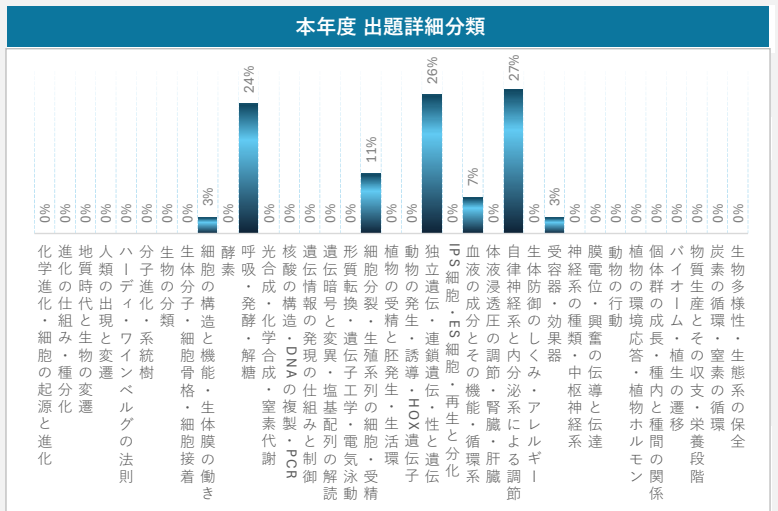
合格に要する能力 (5段階)



出題分野	
系統と進化	0%
生命現象と物質	27%
遺伝子	0%
生殖と発生	37%
生物の環境応答	36%
生態	0%

本年度 解答形式	
論述	100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	内分泌系と自律神経系・フィードバック調節
第 2 問	発酵と呼吸・パスツール効果
第 3 問	ショウジョウバエの遺伝



合格に要する能力 (5段階)		
知識力	3.6	出題分野の幅広い知識を有するか
論述力	3.3	設問の指定に沿って的確に記述するか
解析力	3.4	図表データなどから分析・解析するか
計算力	2.0	式を組み立て、正しく計算するか
見極力	3.5	難度を判断し、適切に時間配分するか

特殊問題の有無	数理生物学なし	生物物理なし	ノーベル賞なし	範囲外問題なし	長文論述なし
---------	---------	--------	---------	---------	--------

特記事項	特になし
------	------

総合評価

難度	3.2	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	63%
分量	69分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	やや多い	標準	

入試の特徴と対策	<ul style="list-style-type: none"> 大問ごとにテーマが一貫している。分野を横断する融合的な大問がほとんどない。 定石的・定型的な問題が多い。 問題文が簡潔で、読解をほとんど必要としない。
入試から見る大学が求める学生像	<p>それぞれの出題で論述問題が出題される。要求される字数が少なく、逆に伝えるべきことの骨子を抽出して表現する必要がある。大問数は少ないが、論述で時間を取られると大きな失点につながってしまう。状況を判断し、自分の考えを端的にまとめる力が求められる。</p>